

「先生たちとの思い出」

滝下昌文（水俣市立水俣病資料館語り部 若かった患者の会 会長）

1. 私と家族の水俣病

私は 1956 年 7 月、水俣病公式確認の年に生まれました。生まれた時からの胎児性水俣病です。水俣病による運動失調で障害者手帳を持っています。手帳前は 10 年に 1 回切り替(え)が必要だったから、原田先生に診てもらっていました。水俣の茂道生まれで、5 人きょうだいの 4 番目です。本当は 6 人きょうだいだったそうですが、いちばん下の子どもは、流産したそうです。

おやじは造船所とミカン山、農業をしていました。長男が造船所をついで、次男が農業をついで、今はマンゴーも栽培しています。両親は昭和 47 年に水俣病に認定されました。ばあさんは、昭和 47 年に解剖して認定されました。わたしのきょうだいは、認定されていません。

2. 小さい頃のこと

入院生活

学校に入る前から、水俣市立病院に入院をしていました。市立病院で原田先生が検査をしていて、胎児性の人たちの写真があるが、その時のことはぜんぜんおぼえていません。水俣市立病院には、胎児性、小児性の患者、大人の患者さんもいました。けいれんがひどい患者さんがいて、だんなさんがだきしめて、とめていました。

市立病院から第一小学校の特殊学級に通っていました。1 年おくれて小学校にいきはじめました。このころは、土曜も学校あったから、授業がおわって、学校で待っていると、おやがバスでむかえにきてくれて、家に帰っていました。家に帰ったときは、ボラかごをてつだっていました。

市立病院では、胎児性の金子と近くのこうえんでブランコに乗ったり、パン屋さんでくずパンを袋いっぱい、10 円を買っておやつに食べていました。夜は詰所で看護婦さんたちと遊んだり、お菓子をもらってって食べたりしていました。湯の児病院ができてからは、病院からバスに乗って通っていました。湯の児病院では、胎児性や小児性のひとたちと一緒に、歩けない人たちは 2 階の部屋でした。わたしは歩けたから、3 階でした。2 階の人たちは、付き添いの人にごはんを食べさせてもらっていました。

湯の児病院は食堂があったから、オニキ先生が当直の時、うどんなんかをおごってもらっていました。オニキ先生に「おごってよー」と、5 人くらいでおごってもらっていました。いっぱい 50 円くらい、もっとやすかったかもしれない。

自宅から通学

小学校 5 年までは、病院ら通っていました。おやじが「ひとりで学校から帰ってこられる

なら、退院していい」と言ったから、一人で帰って、退院しました。家から袋駅まで歩いて行って、バスでかよいました。中学生になったら、家からバス停までは、山道だからおやじが5段切り替えの自転車を買ってくれました。自転車を駅において、バスに乗って、水俣駅前でおいて、バスをのりかえて通いました。

学校の思い出

修学旅行

小学校は熊本市と阿蘇、みんなと一緒に、ふつうクラスと同じバスで行きました。「はやくねれ!」と先生に言われたのをおぼえています。中学校の修学旅行は行っていません。大学病院で目の手術をしました。訓練がたいへんで2~3カ月入院しました。

中学校の卒業式

卒業式は講堂でありました。卒業証書は、教室で名前をよばれてもらいました。水俣病の判決前だったから、マスコミがたくさん来ていました。

3.若い患者の会

石原慎太郎さんが環境庁長官をやめたころ、金子とふたりでなにかしたい、コンサートをしようかと言いました。石原プロの専務さんが来ました。「ホリプロならよく知っている」からだれのコンサートがしたいのかときかれて、石川さゆりのコンサートをしたいと言ったら、「みなまたで準備をはじめる」と言われて、3か月くらいでバーと準備をしました。石川さゆりさんをよぶ「若い患者の会」をつくり、人に認められることをしたいとおもい、「石川さゆりオンステージ」をひらきました。胎児性や小児性のみんなでポスターをはったり、チケットを売ったり、ビラをまいたりしました。

専務に動けない患者がいる明水園で石川さゆりに歌って欲しいとお願いをしましたが、歌うのはあとのコンサートにひびくからとダメで、明水園で握手をしてもらいました。コンサートの朝は、熊本空港まで、胎児性・小児性患者4人で迎えに行きました。バンドマンと前座も来ていました。その前座がビートたけしでした。コンサートは定員を超える人たちが来てくれて、コンサートは大成功でした。

4.働く

大澤さんから、反農連で働かないかと言われて、2年半くらい働きました。「やめたい」と言ったら、「やめる前に全国をまわろう」と言われて、3か月くらいまわりました。北海道まで行きました。全国キャラバンからもどって、大澤さんから北九州で原田先生の講演会と「わが町わが青春」の上映会をしようと思っているとと言われて、1カ月半、北九州に下宿をして準備をしました。わたしが30歳のころです。

原田先生には、謝礼を払うからと、講演をお願いしました。終わってから飲み会がまって、2次会は、原田先生が謝礼でごちそうしてくれました。

反農連のあとは、みなまたの石けん工場に 2 年半くらい、相思社に 2 年くらい、グリーンスポーツの掃除を 2 年くらい。わくわーくは 10 年くらい働いて、ボーナスもありました。ほっとはうすも 2 年くらいいました。からだをこわしてから、仕事をやめました。

5.結婚

グリーンスポーツで働いているころ、結婚しました。息子が平成 6 年 5 月に生まれました。3 年くらいで離婚して、そこからアル中になって、5 回に入院しました。今の家は、子どもが生まれるちょっと前におやじがつくってくれました。

6.先生たちとの思い出

花田先生との出会い

KKT の大木さんたちと飲み会をしたときに、花田先生と出会いました。花田先生の家に泊まったこともある。おもしろい人で、わりと冗談を言ったりしていました。一番の思い出では、都はるみのコンサートに行くときに、花田先生の家に泊まったこと。夜は飲んで、朝から飯を食いに近くの喫茶店に行ったことです。

原田先生との一番の思い出

やさしい先生でした。自分では、なんでか、まったく覚えていないけど、知らん間に昼ごろ、熊本駅にいました。近くの駐在所に行って、「熊大の原田先生ば呼んでくれんですか。水俣から来たが、金を持たん、先生にお金を借りたい。」とお願いをして、電話をしてもらいました。原田先生が来てくれて、先生に「腹が減った、なんでもよかけん、ごはんば食べさせて」と言ったら、24 時間おみせで飯ば食いました。

7.げんざいのせいかつ

むすこと二人で暮らしています。ヘルパーが週に 4 日来てもらっています。

8.「若かった患者の会」

2010 年わたしたちの活動やコンサートを記録した映画の上映会をしました。石川さゆりさんがかけつけてくれ、わたしたちとの再会になりました。わたしたちは、60 代になるふしめの年に、「もういちど石川さんと呼ぼう」「もう一度あの頃の元気をとりもどそう」と「若かった患者の会」をつくりました。おおくの人たちに助けられ、2017 年の 2 月、「石川さゆりコンサート」をすることができました。このコンサートは、昼と夜の 2 回開催しました。しかし、夜のチケットは、なかなか売ず、福岡や熊本など売ってまわりました。また知り合いに買ってもらいました。コンサートには、たくさんの人たちが来てくれて、あつい思(おも)いをかんじました。また、石川さゆりさんのあたたかい思いやりをかんじました。

ひとつの大きなふしめがおわりました。でもわたしたちの人生はこれからも続きます。

来年、水俣病公式確認から 70 年をむかえます。わたしたち「若った患者の会」で石川さ

ゆりコンサートをする予定です。今、一生懸命準備をしています。水俣市文化会館 11 月を予定しています。是非、みなさんコンサートに来たり、コンサートのボランティアとしてかわってください。